

<p><b>科目名：看護過程</b></p>	<p>必</p>	<p>1 単位</p>
<p>( Nursing Process )</p> <p>履修年次/時期：1 年次 後期                      授業形態：講義・演習</p> <p>担当教員：棚橋泰之（実務経験あり）</p>		
<p>学修目的</p>	<p>看護の対象となる人に対して個別性に応じた科学的な看護を実践するための方法である看護過程についてその概要と意義を理解し、看護過程に必要な基本的な知識・技術・態度について学修する。</p> <p>DP2（1）（2）およびCP2,3,6に関連する。</p> <p>科目：KNz-132</p>	
<p>到達目標</p>	<p>①看護の過程とは何かを説明できる。</p> <p>②看護過程の構成要素を述べることができる。</p> <p>③看護過程を用いることの意義がわかる。</p> <p>④看護過程の基盤となる考え方がわかる。</p> <p>⑤事例を用いた看護過程の展開ができる。</p>	
<p>授業概要</p>	<p>看護の対象が持つ看護上の問題点のアセスメント、看護問題の明確化、看護目標と看護計画の立案、看護の実施及び看護の評価に関する一連の思考過程を学習するものである。看護は実践の科学ともいわれるように、援助の必要性と根拠に基づいた看護計画の下に看護技術が実施されることが重要であり、看護実践における思考過程の方法をしっかりと学習することをねらいとする。よって、本教科では看護の独自性を学習すると共に、臨地実習において活用される看護過程展開の理論を学習し、看護判断能力と応用能力、及び問題解決能力を養うことを目指すものである。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 60 点、演習課題 40 点（病態関連図 10 点、アセスメント 10 点、全体像関連図 10 点、診断リスト・看護計画 10 点）</p> <p>試験に対するフィードバックは掲示で行う。</p>	
<p>予習・ 復習時間</p>	<p>【予習】 0.5 時間</p> <p>【復習】 0.5 時間</p>	
<p>教科書</p>	<p>系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院</p> <p>NANDA-I 看護診断 定義と分類, 2018-2020, T.ヘザー・ハードマン・上鶴重美原著編集, 日本看護診断学会監訳, 医学書院</p> <p>看護過程実践ガイド 棚橋泰之著</p>	
<p>参考書</p>	<p>必要時、提示する。</p>	
<p>問い合わせ 連絡先</p>	<p>棚橋泰之 3 号館 3 階研究室 tanahashi@kdu.ac.jp 不在時はメールでお願いします</p> <p>飯塚雅子 3 号館 3 階研究室 iizuka.masako@kdu.ac.jp 同上</p> <p>北村容子 3 号館 3 階共同研究室 y.kitamura@kdu.ac.jp 同上</p> <p>横正奈緒美 3 号館 3 階共同研究室 yokosho@kdu.ac.jp 同上</p>	